

指導行政のポイント

“教育改革国民会議”報告の読み方(2)

菱村 幸彦

教育改革国民会議が、いよいよ今月22日に最終報告書を総理に提出するという。国民会議の提言は「教育を変える17の提案」にまとめているが、各提案に2～6項目の内容を盛り込んであるので、トータルでは50を超える提言となる。

提言を再分類してみると…

17の提案は、改革のポイントをスローガンふうに掲げており、これはこれでわかりやすい分類と思うが、教育関係者には、現行システムのどこがどう変わるのか、必ずしも明確ではない。そこで、全項目(大学教育関係は除く)を一度バラして(うまくバラせないものもある)、私なりに再分類してみた。

こうして並べてみると、今回、初めての提案というものは意外と少ない。大部分はすでに各種の

審議会等で提言されており、十分かどうかは別にして、なんらかの形で実施に移されているものが多い。

分類した各項目ごとに、「公には初めての提言」に印を、「過去に提言があったが実施されていないか、実施されても不十分なもの」に印を、「すでにある程度実施されているもの」に○印を、それぞれ付してみた。

印をつけるにあたって、過去の審議会答申等を精密にチェックしたわけではないし、また、項目によっては、類似の提言はあっても、そのものズバリとは言えないものや、実施が十分かどうか評価が分かれるなど、問題点が少なくないことをあらかじめお断りしておきたい。

(ひしむら・ゆきひこ = 国立教育研究所名誉所員)

〔教育基本〕

教育基本法の見直し
教育振興基本計画の策定

〔学校制度〕

学校選択制の拡大
公立中高一貫校の大幅増設
研究開発学校の拡充
私立学校設置の簡易化
新しいタイプの公立学校の設置の検討

〔学校運営〕

校長の人事権・予算権等の拡大
校長任期の長期化と若手の登用
校長裁量による学級編制の弾力化
教頭複数制を含む運営スタッフ体制
スクールカウンセラーの配置
地域や親に開かれた学校づくり
学校の説明責任
学校評議員制の導入
外部評価を含む学校評価

〔教育指導〕

少人数教育の実施
習熟度別指導の実施
言語教育の重視
古典・哲学・歴史教育の重視
芸術・文化活動の重視
体育活動の重視
IT教育の促進
英語教育の改善(ALTの活用)
体験学習の推進
就労体験の推進
優れた授業情報の提供
通学合宿など異年齢交流の促進
共同生活による奉仕活動の実施
問題児への措置とその受け皿の整備
道徳の教科化
18歳国民の1年間の奉仕活動の検討

〔大学入試〕

大学入試の多様化
大学入学年齢制限の撤廃
暫定入学制度の導入
大学の9月入学制の推進
● 高校の学習到達度試験の実施

〔教職員〕

優秀教員の優遇
長期社会体験研修の充実
社会人の教壇への登用
不適格教師の転職・免職
免許更新制の検討

〔家庭教育等〕

家庭教育の充実
行政の家庭教育への支援
地域の教育力の向上
教育休暇制度の導入
有害情報の排除
「教育の日」の制定の検討

本紙はホームページでも閲覧できます <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>

緊急増刊 1月刊 予約受付中! お申込みは書店または直接小社へ 教育開発研究所 刊
教課審委員を含む専門家が改訂のポイントを徹底解説, 記入方法を図解で例示!

『教職研修』緊急増刊『新指導要録全文と要点解説』定価 2,350 円